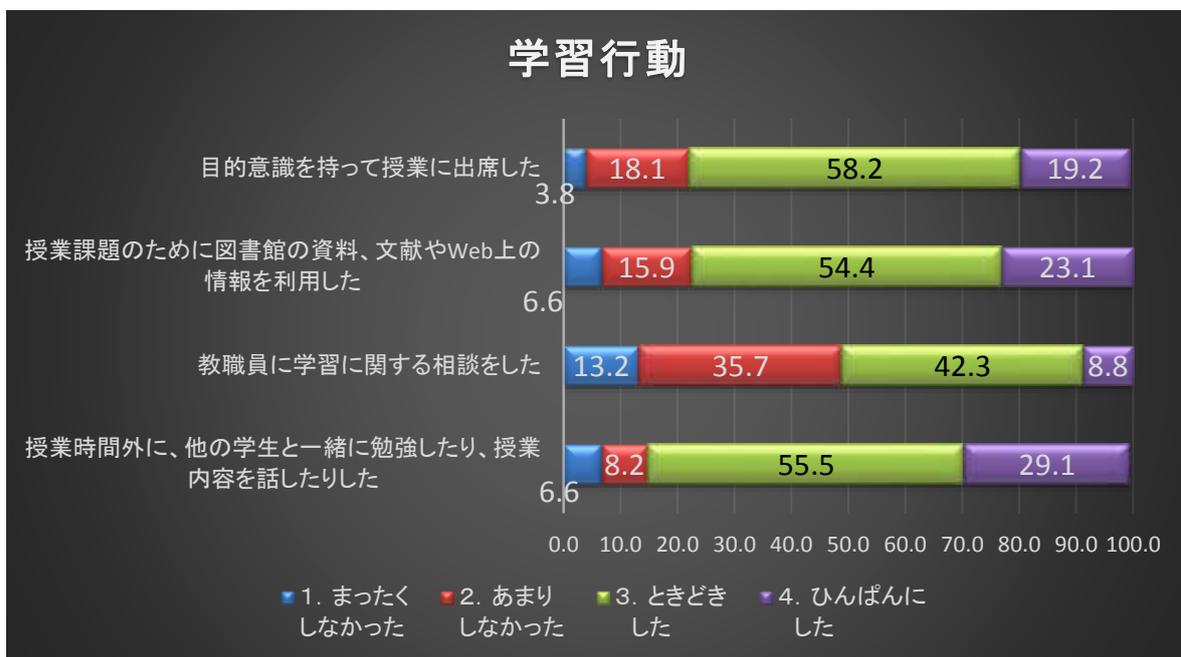
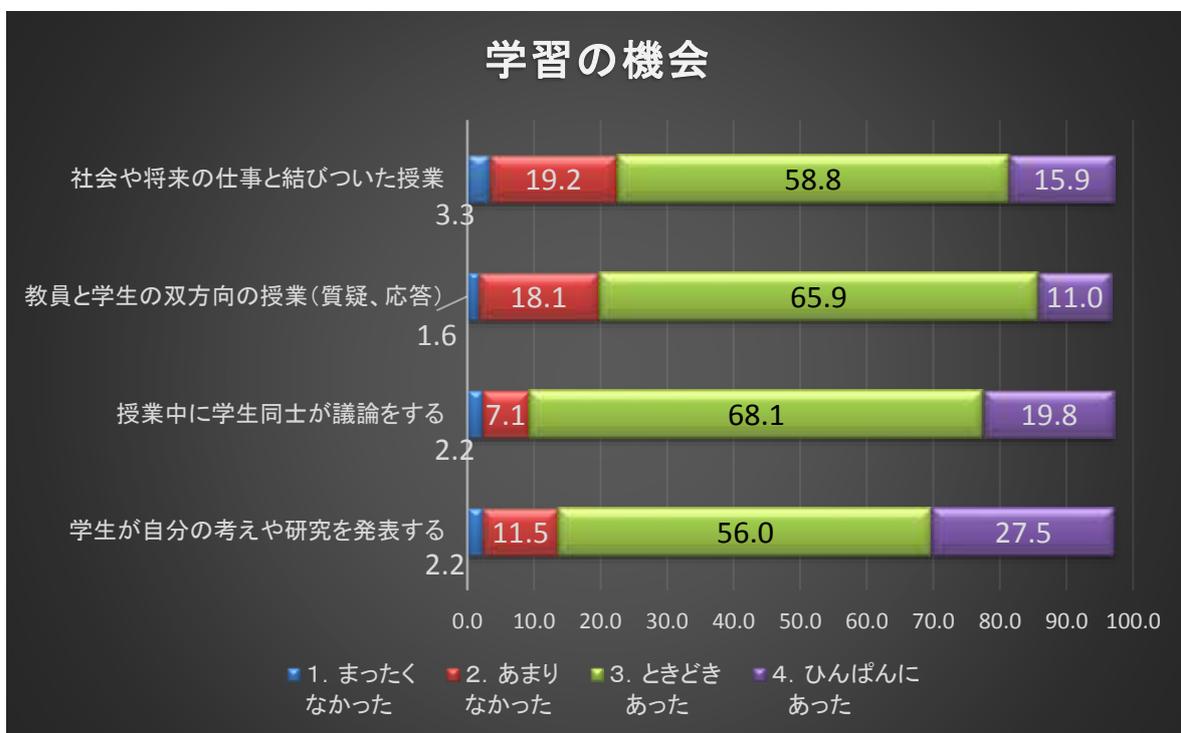


外国語学部

学習行動



学習機会

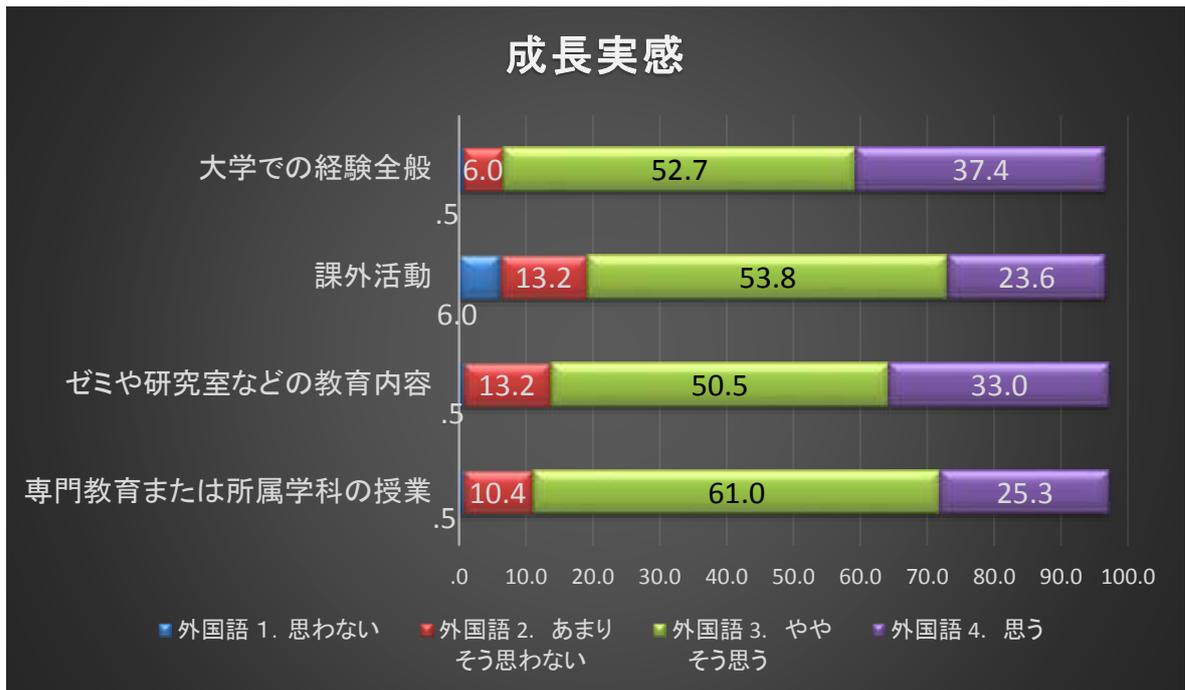


外国語学部

学びの興味・関心（一般科目・専門科目）

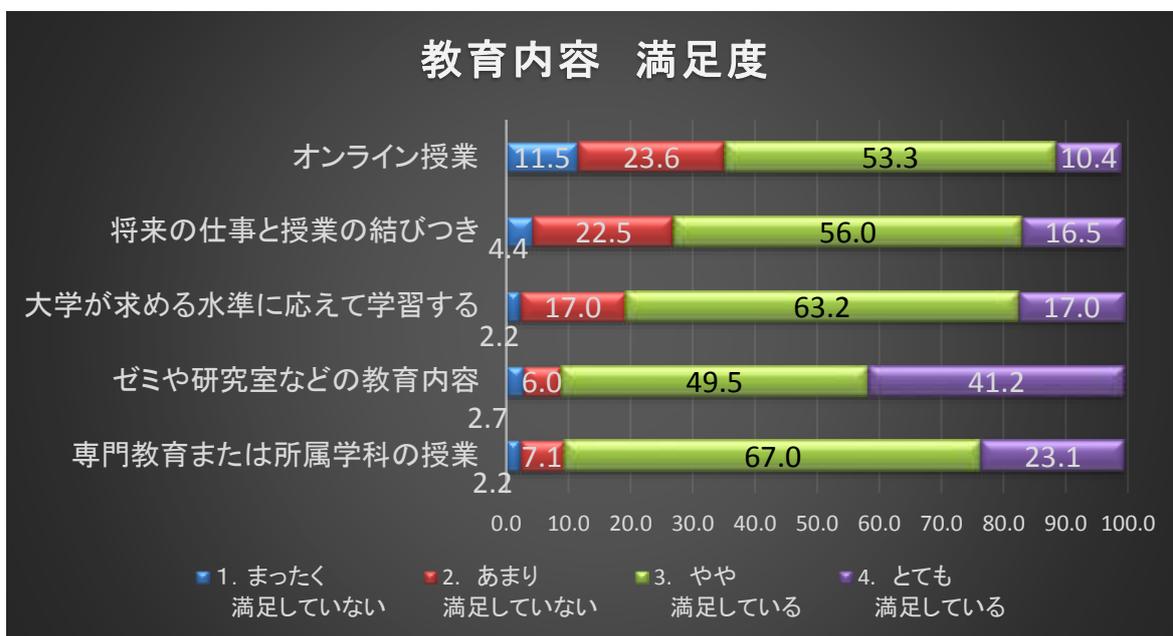


卒業時の成長実感

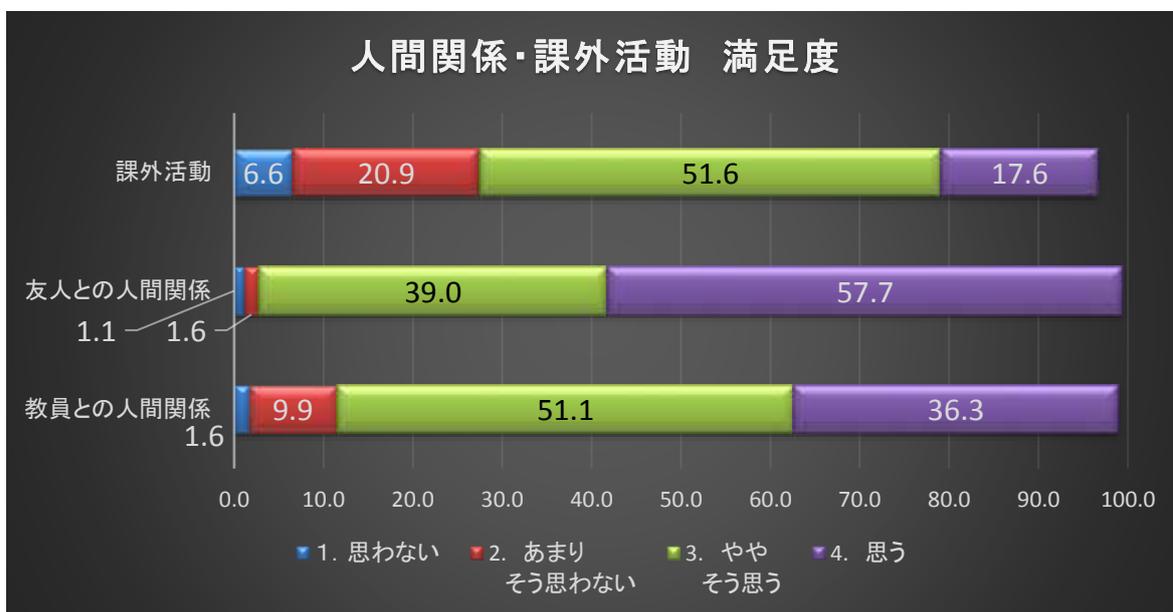


外国語学部

卒業時の教育内容 満足度

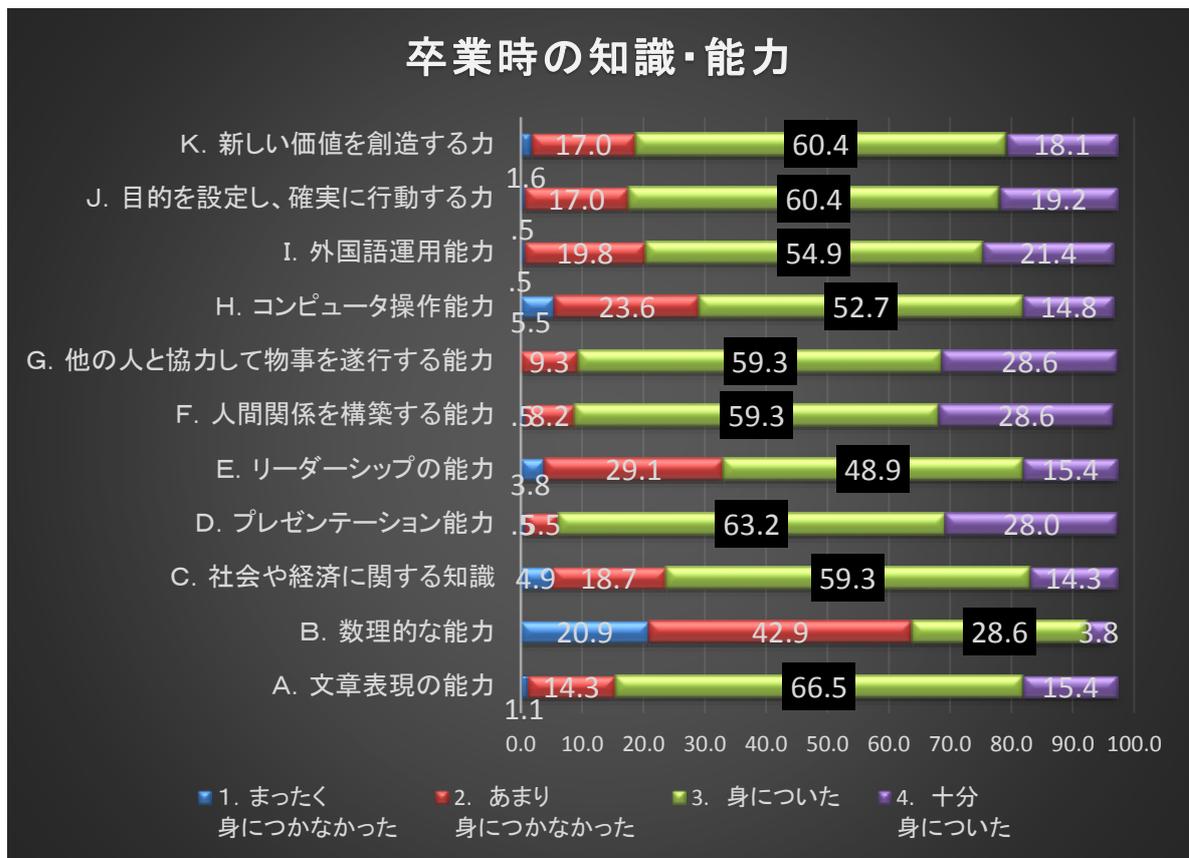
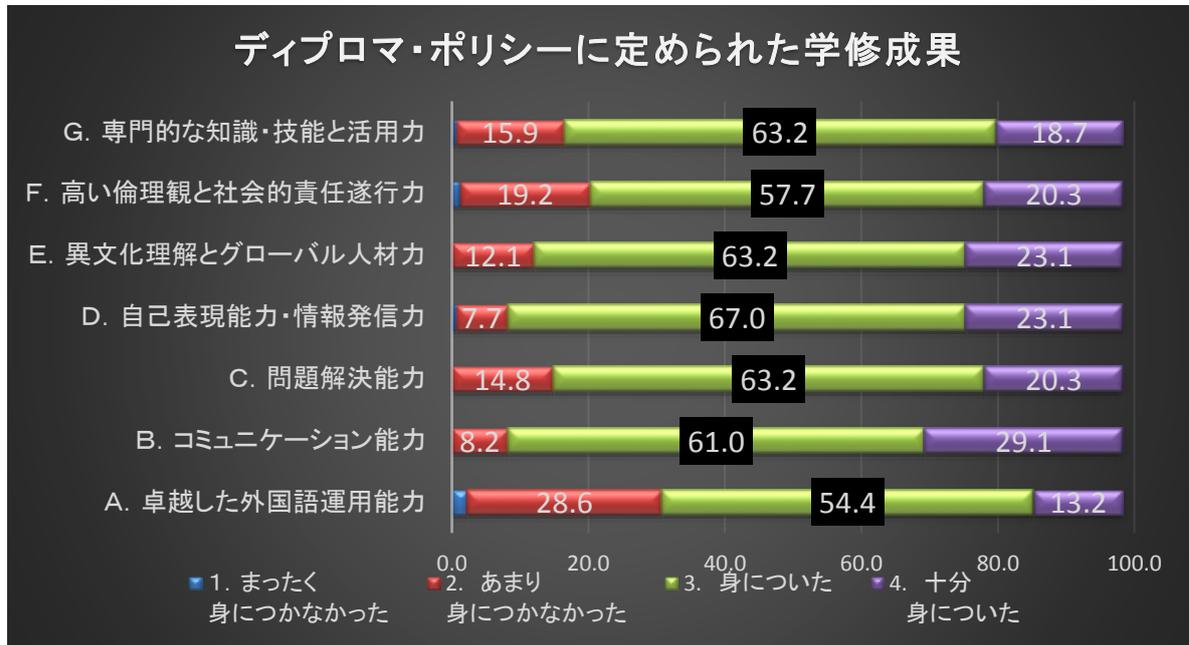


卒業時の人間関係・課外活動 満足度



外国語学部

学修成果（卒業時の知識・能力の習得）



総 評：外国語学部

今回のアンケート結果から、大半の学生が積極的に学び、大学生活に満足して卒業したと言えるだろう。コミュニケーションを中心に学ぶ外国語学部では、学生同士が議論し合い、主体的に学ぶアクティブラーニング手法を多くの授業で取り入れているが、8割以上の卒業生がそうした機会を得たと実感していたことが分かる。その学びを通して自ら成長を実感し、ディプロマポリシーに定められた7つの能力が身に付いたと判断している卒業生が大半を占めている。そのことが、教育内容に対する高い満足度に繋がったと考えられる。これらの結果は、学部教育がその目的に合わせて学生の成長を促すために機能していたことを示すだろう。

しかし、改善点も明らかとなった。上記の通り授業内容には満足する一方で、授業に対して十分な興味・関心を持って取り組めなかった卒業生が多かった。この点を改善するためには、これまで以上に学生と教員が価値観を共有することが重要であろう。これまでも、1・2年次において「大学入門」やアカデミックアドバイザーとの面談で、目標の明確化、そしてその目標達成に向けた計画的な科目履修を促してきた。しかし、そうしたことを十分理解してははずの3・4年次で、就職活動開始が早期化する中、卒業要件の単位数を満たすことが目的となる学生が増えていた可能性がある。上級学年に対しても、学びの意義を継続的に伝える必要があると改めて感じた。同時に、学生からの意見を十分に把握することも授業改善には必須である。外国語学部では2019年度より学生を交えた「FDカフェ」を実施してきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中断してしまった。今後はそうした活動を活発化させ、学生と共により良い授業を作り上げるという姿勢を維持していきたい。学生一人ひとりが興味・関心を持ちながら主役となって各授業に取り組むことが、結果的には他のアンケート項目の多くにおいても改善に繋がると考える。